

5/27

日帝・米帝のインドネシア侵略を粉砕せよ！

一、始めに。

全市大の学友諸君に、我々安佐 沖繩斗争は、米帝のカンボジア侵略に、全インドシナ人民と連帯して、斗争ことを表明する。又、その中で、日帝の東南アジア侵略をも阻止しなければならぬ。

先日のアジア会議は、日本のヘンモニーをもって終結した。このことは、まさに日帝の東南アジア侵略を明確にしたのである。日帝は、軍事的には破産した米帝の援助者として登場し、カンボジア中立化シユネーヌ会議方式を積極的に推進し、ニクリンの「タマクドリトリン」ペトナム化和想と共に押し進めていたのである。このことは、まさに、インドシナ人民の革命斗争を正統化しようとしているのである。これに対して、中印両国は、同様にシユネーヌ方式を支持し、国家の主権の尊重といった形でインドシナ人民階級斗争を粉砕しようとしているのである。

このような、社会主義国の対応をみすごした形で、日帝、米帝はあくまでも、自己の目的を貫徹しようとしているのである。日帝は、昨年沖繩返還と、米帝水たとりつけるのに成功し、中絶した米帝と共に東アジア反帝革命の軍事基地として東南アジア市場への経済侵略基地化をもはかっている。そして、日帝内部においても、自主防衛のための自衛隊を強化し、海外侵略を可能にし、また産業を再編成し、労働者の右傾化をはかり、教育の帝国主義的再編をはかり、イデオロギー的にも、土国主義的アショナリヌムをあることにより、海外の日本人をさるといった形での海外侵略を可能にしようとしている。このような日帝の動向に対して、左翼内部においても社会党総評の右傾化、そして代々木の評会主義的対応がこんどの米帝のカンボジア侵略に対しても、あきらかにされている。

この市大内部においても、代々木民権諸君は、むろん単に米帝のカンボジア侵略反対といった形で、従来の、対米従属反対路線を一步も脱却しえず、学生斗争諸君は、その平和共存路線からして、カンボジア中立化シユネーヌ会議方式といった形で、インドシナ人民の斗争を粉砕化しようとしているのである。このような諸君をいさなす必要は、きりと暴露し、米帝のカンボジア侵略をふんさいし、日帝の東南アジア侵略を阻止しなければならぬ。

我々は、本日二二の夜半において、カンボジア反戦討論会に、すべての学友諸君が参加されることを希望する。

- スケジュール
- 27日 討論集会 (二二の教室) 3時
 - 29日 学内集会 3時 教養芝生
 - 全日学生統一行動 6時 京都円山公園

5/27 安佐・沖繩斗争会